

皇太后章子内親王後一條院長女、母中宮威子

長曆年中入太子冷泉後宮永承元年七月十日爲中宮治曆四年四月十二日皇太后略節

〔扶桑略記二十九條〕延久三年三月九日甲午左大臣藤原師實朝臣取左兵衛督源顯房卿息女賢子爲養子令入皇太子白河宮

〔扶桑略記三十條〕延久六年六月廿日丙子女御藤原賢子册爲中宮

〔玉藥〕承元三年三月廿三日此日故攝政前太政大臣貞經長女有入宮事名立子、生年十八、與余同腹、母權中納言能保卿女

陽明門院後朱雀禎子四月廿三日入宮賢子中宮河后三月九日入宮日月叶萬壽例支干同延久跡可

吉祥耳略廿六日早旦著直衣參東宮德御方即參御息所御方即退出歸一條亭今日以下每

夜御息所昇給也但無女房來召并覆衾之儀今日以後有御朝餉云々

〔百練抄十二條〕建曆元年正月廿二日有立后事以藤原立子爲中宮

〔女院小傳〕後京極院禪子入道大相國實兼三女口口入太子後醍醐宮文保二、四、廿從三位七月廿八爲

女御元應元、八、七爲中宮

〔扶桑略記二十四條〕延喜廿三年四月廿六日癸酉女御藤原穩子立皇后

〔日本紀略四七〕天德二年十月廿七日甲辰策立女御從三位藤原朝臣安子爲皇后即日任宮司

○按ズルニ、穩子ハ、日本紀略、帝王編年記、一代要記、大鏡裏書等ニハ、中宮ニ作り、安子ハ、扶桑略

記ニ爲中宮ト見え、帝王編年記ニ、皇后藤安子云々、號中宮ト記ス、是レ當時中宮皇后相通ジテ

稱セシナリ、

〔榮花物語二〕其冬元年關白藤原賴忠殿の姫君子遵うちに參らせ奉り給ふ世の一の所におは

しませば、いみじうめでたきうちに、殿の御ありさななども奥深く心にく、おはします略中只

今の御有様に上融もまたがはせ給へば、おろかならず思ひ聞えさせ給なるべし略中かゝる

初爲女御後爲后